地域とともに育つ緑っ子

武豊町立緑丘小学校

1 実践のねらい

- 地域と家庭が深いつながりをもち、ふれあいのある町を作るために、異世代交流会議を設け、 地域と学校とが連携して子どもが主役となる活動を推進する。
- 児童が地域の異なる世代の方々と交流する中で、コミュニケーション能力を身につけたり、 先人の知恵から学んだりすることができる。

2 実践の内容

(1) 田んぼの教育

本校では、異世代交流会議と家庭教育推進協議会が連携し、田んぼの教育(田植え・稲刈り・もちつきの一連の活動)を実践し、異世代の交流を図るとともに伝統文化を継承する取り組みを継続して行っている。

ア 田植え・どろんこ運動会(6月14日)

昔ながらの米作りを体験することで、昔の人々の大変さや食の大切さを理解するとともに、異世代の交流を図ろうと毎年行われ、今年で11年目を迎えた。

学校での開会式の後、田んぼに移動して地域の方から田植えの方法について教えていただいた。当日は保護者の方も参加して、児童と共に作業をしたり、活動の補助をしたりしていただいた。なかなか、引いてある紐にそろえて植えられなかったり、間隔がまばらになったりと苦戦しながらの田植えとなった。その後は、親子交えてのどろんこ運動会である。いくつかの種目に児童と保護者が参加し、どろんこになりながらも笑顔があふれる運動会となった。

見学にお越しなった地域の方々からも、あたたかい声援と大きな拍手をいただいた。

イ 稲刈り(10月25日)

ここ数年は悪天候が続き実施できていなかったが、 今年度は念願叶って4年ぶりに実施することができた。 地域の農家の方々から稲刈りの説明や注意を聞いた後、 一斉に稲刈りを始めた。慣れない鎌を手に悪戦苦闘の 連続であった。子どもは稲を刈ることに夢中で、刈っ た稲を束ねて縛るのはもっぱら保護者の役目となった。 一緒に参加したお年寄りの手際のいい仕事運びに子ど



田植えの体験



どろんこ運動会



稲刈りの様子

もも親も終始感心をしていた。

ウ 親子ふれあいもちつき大会(12月20日)

田んぼの教育の締めくくりは、親子ふれあいもちつき大会である。地域の方、児童、保護者、主催者、PTAの方や中学生のボランティアの参加で、毎年1,000名を超える会である。日や杵を使ったもちつきを経験したことのない大人も多く、地域のお年寄りや農家の方々の指導により、もち米を蒸す段階から日や杵の準備、もちをつく段取りまで細かく教わった。自分たちが植えた苗が実り、そのもち米をつかったつきたてのもちを食することで、自然の恵みを感じるとともに、日本の伝統文化に触れる機会となった。

(2) 親子草刈り作業(8月23日)

夏休みの全校出校日には、児童と共に、PTAやグリーンパパ(おやじの会)が、校内の草刈り作業を行った。多くの父親の参加があり、父親同士の繋がりを深めることができるいい機会となった。

(3) 異世代交流会議・昔の遊び講習会(9月12日)

3年生が地域のお年寄りを招いて、「こんなまちにしたいな、わたしたちの町武豊の未来」について意見交換をした。 児童は、「人に優しく、暮らしやすい町にしたい。」とか「みんなが集まって遊んだり、勉強したりすることができる町にしたい。」という意見を述べた。お年寄りからは「未来を担う子どもたちが夢をもって、元気に生活できる町であり続けてほしい。」「子どもたちの意見を聞けて、うれしく思う。その意見がかなうようにわたしたちも頑張って働いていく。」という意見をいただくことができた。この意見交換の後、「昔の遊び講習会」を行い、お年寄りたちからいろいるな昔の遊びについて教えていただき、一緒に楽しく遊ぶことができた。この体験を受けて、3年生は11月の学習発表会で、地域のお年寄りの力を借りて、昔の遊びコーナーを設け全校児童や保護者に昔の遊びの紹介をしたり、体験をしてもらったりすることができた。



親子ふれあいもちつき大会



グリーンパパの活躍



お年寄りとの意見交換会



昔の遊び講習会

3 実践の成果と課題

異世代交流会議や地域の団体と連携した活動を通して、地域と学校が連携して子どもが主役となる活動を行ってきた結果、子どもたちは、世代を超えて自分たちのために活動してくれる大人の姿に多く触れることができた。このことにより、子どもは、自分が地域の一員であり、これからも関わっていくのだという思いをもつことができた。また、大人との意見交流をする中で、コミュニケーション能力を身に付け、自分の言葉で表現することの大切さを感じることができた。今後も地域の方々と交流し、絆を深め、地域を愛していけるような「緑っ子」の育成に尽力していきたい。